



宮城県中学校長会

会 報

令和4年度 宮城県中学校長会 第73回総会開催される

総 会 概 略

6月1日(水)、第73回宮城県中学校長会総会がホテル白萩を会場として開催されました。2年間実現できなかった全会員が一堂に会する総会の開催を目指して準備をして参りました。5月6日の理事会において「新型コロナ感染対策を徹底し、全会員を参集した形でぜひとも行いたい」と確認し、120名を超える会員が参加しての開催となりました。

橋元伸二総務部長の開会宣言後、宮城県教育委員会教育長の伊東昭代様から祝辞をいただきました。伊東様からは、「生徒の目線に立った教育活動の推進を図るとともに先導役を担っていただくことを期待する」「志教育の推進、いじめ対策・不登校支援を含めた児童生徒の心のケア、教科指導力の向上による学力向上、信頼される安全・安心な学校づくりをお願いしたい」との御挨拶をいただきました。

また、3月末に御勇退された25名の校長先生方を代表して、長澤裕司様に感謝状が贈呈されました。長澤様からは、「校長職を楽しんでほしい。そして子供たちにたくさんの満足感を与えてほしい」「11年前の震災を管理職として経験した教職員は少なくなっている。ぜひ記憶と記録を後世のためにも留めてほしい」と御挨拶いただきました。

続いて新会員の紹介の後に、新会員を代表して逢隈中学校星直美校長が三田村会長からバッチを授与されました。更に新会員を代表し、唐桑中学校菅原英二校長から、力強く心のこもった挨拶を

いただき、前半の締めとなりました。

後半の部では、住吉中学校杉山孝一校長と円田中学校小原彰校長が議長を務め、前年度と本年度の事業及び会計、役員報告について承認されました。また、運営規程の改正、令和4年度活動方針及び事業計画、会計予算、宣言決議、要望書についても原案どおり承認されました。また、第72回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会について、実行委員長である東豊中学校三浦仁校長から約900名の会員が参加するハイブリッド方式での実施について説明があり、共通理解が図られました。

閉会の挨拶では千葉睦子副会長から、「学校経営を任されている校長たちが一堂に会して確認し合うことで明日からの学校経営の励みになる。子供たちが本気で活動できることを真ん中において私たちが考え議論していくことが大切である」と挨拶があり、無事閉会となりました。





あいさつ

宮城県中学校長会

会 長

三田村 素 志

今週、衣替えにより生徒たちの制服が夏服になりました。爽やかな初夏の風が半袖に心地よい季節を迎えています。

本日はご多忙の中、
宮城県教育委員会

教育長 伊東 昭代 様

前宮城県中学校長会

会 長 長澤 裕司 様

にご来臨賜り、3年ぶりに全会員を参集範囲として、『令和4年度宮城県中学校長会総会』が開催できますことに、一同心より感謝申し上げますとともに、大きな喜びとするところでございます。

刻々と様相を変える新型コロナウイルスの感染状況や去る3月16日に発生した地震被害への対応を迫られながらの新年度スタートとなり、慌ただしく過ぎた2か月でした。コロナ禍での学校経営は3年目となりましたが、各校ではこれまでの経験や得られた知見を生かした学校生活の上に立ち、教育活動が展開されていることと思います。



この春の人事異動において、25名の皆様がお勇退、14名の方々がご退会されました。これまでのご尽力と多くのご教示をいただきましたことに感謝申し上げます。

そして新たに、11名の転任・再入会、31名の新入会員をお迎えしています。心より歓迎申し上げますとともに、たいへん力強い思いでございませう。

本会はこれまで、宮城県の中学校長が連携を図り、中学校教育の全般にわたり、様々な課題の検討や研究協議、関係機関への積極的な提言や情報発信等を行いながら、本県教育の振興に寄与することを目的に歩んでまいりました。

そして、本日の会員が一同に会しての総会の場は、本会が持つ歴史と伝統を知ることや校長としての自覚を新たにすることもなってきたものと思っております。今年度も、宮城県の中学校長として共に手を携えて進んでまいりましょう。

さて、この2年余り、私どもは新型コロナウイルス感染症への対応に追われながら、いかに教育活動を推進するかという課題に対峙することになり、まさに、大変難しい判断を迫られる時間を過ごしてまいりました。行事も、実施したラしたで意見をいただき、中止したラしたで意見をいただくというようなご経験



もされたのではないでしょうか。

そんな中でも、この間、教育界は止まることなく動き続けました。学習指導要領改訂の趣旨や内容に基づく教育課程の編成と確実な実施、個に応じた指導を学習者の側から整理する「個別最適な学び」の充実、また、コロナ禍での学びの保障には必要なものでしたが、教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）やGIGAスクール構想が急速に展開し、一人一台の端末と高速大容量ネットワークが一気に整備されました。この動きを止めることなく「ICT機器等を効果的に活用した学習の質の向上」を先に進めることも大切な課題のひとつだと感じます。

さらには、教育機会均等法をはじめとした教育改革が推し進められており「多様な学びの場の実現」や「コミュニティー・スクールの具現化」「学校における働き方改革」など、「令和の日本型教育」の実現に向けた、新しい時代の学校づくりが求められており、我々は、喫緊の教育課題として向き合っていかなければならない状況下にあります。

「校長としての力量」が、今、まさに求められていることを会員全員で確認したいと思います。

コロナ禍をはじめ、東日本大震災以降も多くの災害に見舞われています。このように様々な困難や課題に対応していくためには、我々会員同士の情報共有と緊密な連携を図ることが求められます。そのうえで、校長会の会員の知恵と力を合わせて、教職員や地域とともに、生徒たちの学びの充実や健全な成長を願い、全力で尽くしていくことが大切だと思います。我々128名の会員は、先を見据えながらも、目の前のことに真摯に正対し、確

実な一步一步を積み重ね、職責を果たしていくことを誓い合いたいと思います。

今年度は今月24日の開催に向け準備を進めております、「第72回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会」の開催という大きな事業もごぞいませ

ず。当初は参集型の研究協議会開催の実現を模索しましたが、新型コロナウイルスのまん延状況が予測困難な中での準備、開催をすることへの不安を払拭することができませんでした。そこで、受ける影響を極力軽減することを念頭に、本県への参集参加者を絞り込むことと、Webによる通信等の機能を活用した運営方式により1日で開催するという「複合型縮小大会」を目指すことといたしました。大会実行委員長である東豊中学校の三浦校長先生から、後ほど詳しくご説明いただきますが、仙台市中学校長会とも連携をしながら、各部門での準備も最終段階に入っております。この研究協議会の開催が、ここ2年間実現できていない、東北地区の校長会との交流を再開し、深めることになると期待をしているところでございます。大会の成功に向け、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びになりますが、本日の総会では、研究協議会の内容を含めまして、本年度の校長会のさらなる活性化に向け、様々な協議が予定されております。議事が円滑に進められますようご協力をお願い申し上げますとともに、本年度の宮城県中学校長会の会員が相互に研鑽に努め、宮城県の教育の一層の充実と発展に貢献していくことを改めて皆様と確認をし、開会のあいさつといたします。



宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化する中、新しい時代の中学校教育の課題に対応するとともに、自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災による被災からの再生と新型コロナウイルス感染症対応を第一義に、これまでの成果の上にならぬ、当面する教育課題の解決を図り、特色ある学校づくりに努め、県民の付託に応える決意である。

ここに、第73回総会に当たり、下記事項を決議し、その実現に期する。

決 議

- 一 人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一 学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
- 一 現在の教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一 創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える開かれた学校づくりに努める。
- 一 教育活動の活性化を目指し、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し、教育水準の維持向上を期する。
- 一 学校が担うべき業務の明確化・適正化をはじめ、「学校における働き方改革」を推進し、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮する。
- 一 東日本大震災をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と防災教育・安全教育の充実に努める。

令和 4 年 6 月 1 日

宮城県中学校長会

新 任 抱 負

「教職員・生徒・保護者・地域とともに」



大河原町立金ヶ瀬中学校長

遠藤 和 弘

4月1日、大河原合同庁舎での辞令交付式を終えた後、大河原町教育委員会への挨拶を済ませ、緊張と不安の面持ちで、学校へ向かいました。学校では、新2・3年生の生徒会執行部と部活動総出、そして教職員による心温まる歓迎を受けました。すばらしい出会いにとっても温かな思いに包まれて、この生徒たち、教職員のために「学校経営に全力を尽くしていこう」と改めて身が引き締まる思いを強め、校長としての第一日目のスタートを切りました。

金ヶ瀬中学校は、大河原町ののどかな田園地帯に立地する全校生徒112名の小規模校です。生徒は落ち着いて生活しており、保護者も地域の方々も大変協力的です。職員は、若い先生方が多いですが、生徒と共に汗を流し、教育への情熱にあふれる職員によって、日々の教育活動をこれまで順調に展開しています。

今年度の生徒会スローガンは「我夢支楽（がむしゃら）」です。このスローガンには「我ら、夢に向かって夢中になり、支え合い、楽しく目標に向かう」という意味が込められています。このコロナ禍にあっても、大河原町の教育が目指す「笑顔」「元気」「学び」を学校生活の中で「我夢支楽」に見せてほしいと思います。

赴任して2か月が過ぎ、少しずつ学校の様子が見えてきています。校長として、これまでの良き伝統をしっかりと引き継いでいくとともに、学校課題の改善に取り組んでいく所存です。教職員とともに、生徒とともに、そして保護者・地域の方々とともに、「志を高め 学び継ぐ ひとつづくり」に邁進していきます。

最後に、いつも大変ありがたいのは、町校長会の存在です。校長先生方が、とても気に掛けてくださり、頻りに声を掛けていただいています。こうした諸先輩方を見習い、そして謙虚に、常に感謝の心を持って、職責を果たして参りたいと思います。

新 任 抱 負



「地域と共に」

亘理町立吉田中学校長

窪 寺 祐 二

6月の或る日、校地内を巡回していると、校舎前庭にそびえる校木の五本松（黒松）の中からカッコウの鳴き声が聞こえてきました。さらに歩を進めると、校庭の隅の法面に浜昼顔の花を見つけました。この豊かな自然環境は、校長としての職責に重圧を感じ、常に張詰めた状態だった私に一時の安らぎを与える大変有り難いものでした。

さて本校では、総合的な学習の時間の中で、「共に生きる」のテーマのもと、亘理町を中心とする多くの方々との触れ合いを通して自己の生き方について考えを深める教育活動を実践しています。その代表的なものに、1年生で実施する「苺の栽培（地域産業）」体験があります。先日、この活動に協力をいただいている亘理町JAのお二人が学校に打合せに来ました。名刺を交換した後、話された内容は、「校長先生も替わりました。コロナ禍で、今後も活動が十分にできるのかといったことも心配です。この機会に、学校が負担と感じるならば、やめてもらってもいいです。」とのこと。しがらみなどがあり惰性で続けているのなら、お互いにプラスにならないので打ち切りたいといった趣旨の話もされました。しかし本校の苺栽培は、歴代の校長先生方が20年をかけて地域と共に築き上げてきた特色ある教育活動であり、私も生徒の成長のために継続すべき価値のある活動であると考えていたので、これはまずいなと思いました。お二人には、この活動の趣旨を説明し、生徒の成長のため地域の力が必要であること、また最終目標が、社会に貢献できる人材育成のためであることなど、校長としての思いを伝えました。最後は「子供は好きですから、そういうことなら喜んで協力します。」と仰っていただきました。亘理町JAの皆様には心より感謝申し上げます。

私たちの目指すところは、社会に貢献できる人材の育成です。地域の声を聞きながら、学校の思いをしっかりと伝え、この自然豊かな環境の中で、地域の方々と手を携えながら、生徒を守り育てる学校を創っていきたくと考えています。

「地域の将来を担う
子どもたちのために」

利府町立しらかし台中学校長

尾 形 裕

高校に27年、支援学校に2年勤務し、予想もしていなかった新任校長としての中学校勤務。校長としてよりも、中学校とはいかなるところか、まずそれが不安でした。しかし、その不安は3月末に利府町教育委員会へ挨拶に行った段階で消え去り、早く新年度を迎えたい期待感しかありませんでした。そして迎えた4月1日。辞令をいただき、教育長に報告、そして学校へ。全教職員からの温かい歓迎を受けましたが、このように校長先生を迎えた経験がないので、大変恐縮しました。現在2か月半が経過し、元気な生徒たちに囲まれ、そして教職員にも恵まれ、楽しい毎日を過ごしております。生徒、教職員、保護者、教育委員会など多くの方々に感謝しております。特に近隣中学校2校の校長先生には、気軽に相談させていただき、本当にありがとうございます。

本校は平成4年度に利府中学校から分離開校し、今年で31年目を迎えます。生徒数は平成11年度の818名をピークに、現在は300名を若干切る状況です。子どもたちの部活動での活躍は特に素晴らしく、団体競技では、野球部の全国大会準優勝を始め、バスケットボール部、弓道部、駅伝が全国大会で活躍し、個人競技では、フィギュアスケート、陸上競技部、剣道部、体操、水泳が全国で輝かしい成績を収めています。しかし、生徒数の減少に伴い、部活動を削減せざるを得ず、弓道部や剣道部などが廃部となりました。

利府町では志教育として「町はひとつの学校」の理念のもと、3シップ（ブラザーシップ・スクールシップ・キャリアシップ）を柱に小学校・中学校・高校・支援学校が連携して取り組んでおります。高校・支援学校で勤務した経験を生かし、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせ、将来の社会人としての生き方を子どもたちに探究させる手助けができればと考えています。

最後になりますが、心身ともに健康を保ち、子どもたち、地域のために全力で職責を果たしていきたいと思っております。

新 任 抱 負



「誰一人取り残さない学校」

富谷市立富谷中学校長

佐藤 広 昭

富谷市教育委員会から富谷中学校への異動。内示の時に、教育長から告げられ、これまでお世話になった先生方がいらっしゃるという安心感と現場の先生方や市教委の方とどのように接したらよいかという戸惑いが、私の頭の中で交錯しました。

富谷市では「子どもにやさしいまちづくり」、富谷市教育委員会では「誰一人取り残さない教育」を掲げています。また、富谷中学校には、本年度から東北初の不登校特例校「西成田教室」が開設されました。様々な環境により登校が難しくなった生徒を受け入れ、多様な学びや中学校生活を提供するものです。私は、生徒の思いを大切に、子どもと保護者に寄り添い「誰一人取り残さない学校」を目指そうと決意しました

赴任して約2か月。富谷中学校本校においても西成田教室においても、先生方は生徒や保護者の話をよく聞き、思いを共有し、真摯に接しています。生徒一人一人の状況を踏まえ、生徒・保護者と一緒に考えています。その姿を見て、私は改めて自分に言い聞かせました。「生徒・保護者・職員・地域の方の思いに応えるために、自分は何をする？」

「置かれた場所で咲きなさい」私は、富谷中学校という場所で、生徒・保護者・職員・地域に合った花を咲かせられるように努めていきたいと思っています。同時に、生徒や職員も素敵な花を咲かせることができるようにバックアップしていきたいと思っています。そして、その種がこの地に根付き、ますますこの地にふさわしい花が咲き続けていくことを願っています。また、別の地にも飛んでいって、別の地でも素敵な花を咲かせることも楽しみです。

誰一人の種も途中で枯れることなく、生き生きとした笑顔あふれる花となるように、誰一人取り残さない学校を目指し、私の使命を一生懸命果たしていきたいと思えます。



「魅力ある小中一貫教育の創造を目指して」

色麻町立色麻小学校・中学校長

菅原 恵 美

そんな浮かれた気持ちで、とお叱りを受けそうですが、毎日が感動的で楽しく、幸せです。2か月経った今の気持ちを表す言葉が「幸せ」なのです。小学1年生から中学3年生までの子供達と毎朝交わす笑顔のあいさつ。学校課題を前に、先生方と悩みながら解決に向かうプロセス。感染対策を講じながら、子供と先生が楽しそうに歌っている姿と歌声。小・中の先生方が同じグループを組み、和やかな中にも真剣に学力向上について考える研修会。小学校低学年の教室にも顔を出し、声を掛け、褒めてくれる中学校の教職員。最近ますます頑張っているなど中学生に声を掛け、励ます小学校時代の担任。校長室前を通る時、いつもとびきり大きな声で挨拶していく中学生。朝、秘密基地から採ってきたエンドウ豆を特別あげるよとこっそりくれる小学生。小学生を優しくサポートしていた中学生が、10分後には力強い走りを見せた運動会。その運動会の閉会式でサプライズと称して、色つきの花火を打ち上げてくれた業務員さんと子供たちの大歓声。毎日の教育活動のどこを切り取っても、校長として感動することばかり、幸せがあちこちに広がっているのです。

色麻小・中学校は来年度、義務教育学校に移行することになっており、現在準備を進めています。また、同じく来年度からコミュニティスクールを導入します。色麻小・中学校で過ごせば過ごすほど、すでにその基礎が出来上がっていますし、地域の方や教育委員会からの多大なるご支援とご協力で志教育や体験活動は成り立っています。この環境を当たり前とせず、心から感謝し、恩返しや貢献活動ができる児童生徒を育てていきたい。そして私自身がこんなに素晴らしい教育環境の中で、校長としてたくさんの幸せをもらっている分、子供たちのために、先生方のために、地域の方のために、ますます魅力的な学校、地域が誇る学校を目指して尽力し続けていきたい。そして最後は私が何よりも一番思っていることです。「教頭先生、毎日毎日、本当にありがとう！」

新 任 抱 負



「地域とともに」

石巻市立稲井中学校長

菅原 栄 治

「(い) つでも (な) んでも (い) っしょうけんめい」

この言葉は、76年の学校創立以来、先輩から後輩へと稲井生に受け継がれてきた合い言葉です。4月1日着任の日。盛大な歓迎とともに、生徒会長より教えていただきました。その時の生徒会長の凛とした姿からは、学校を地域を愛し、伝統を大切にしている誇りがあふれ出ていました。

当学区は旧北上川下流域に位置しており、周囲は山々に囲まれ、中央部には真野川が流れる豊かな稲井耕地の中にあります。旧稲井町のコミュニティを大切にしており、保護者や地区民の教育的関心や学校に対する理解・協力性も高い地域です。生徒も明朗で素直、協調性に富んでいます。

本校では、令和5年度よりコミュニティ・スクールを導入する予定としており、現在その実現に向けて準備を進めているところです。幸いにも同じ敷地内に小学校と併設していることから、義務教育9年間の子供たちの育ちと学びをつなぐ小中一体となった質の高い教育を地域とともに推進していくことを目指しています。

先日、地域の皆様方の学校に対する熱い想いに触れる機会がありました。子供たちの健やかな成長のため、地域全体で学びや成長を支え、心豊かでたくましい、明日の稲井を担う子供の育成を心から願っているものでした。その中には地域コミュニティの活性化に期待する声もあります。私を含め地域外から勤務する教員が大半を占める中、持続可能な体制づくりができるのか正直不安もありますが、そのようなハンディを背負っているからこそ、子供とともに地域を学び、学校が地域の信頼を得られるよう、ともに手を取り合い、対話していく姿勢を大切にしていきたいと考えております。

赴任して2か月余り。加速度的に変化する社会に応じた新たな教育施策等への対応や、引き続き取り組むべき課題もありますが、このすばらしい地域に育まれた生徒が学校や地域に誇りを持ち、笑顔あふれる学校生活が送れるよう努めてまいります。



「未来を拓く」

石巻市立荻浜中学校長

万城目 堅 也

本校のある石巻市荻浜地域は、風光明媚な牡鹿半島の南岸中央の荻浜を中心とした12地区（浜）で形成され、カキ養殖業及び沿岸漁業を営む世帯が多い。近くには歴史に名高い月浦があり、遠く太平洋を眺望する自然豊かな教育環境にある。

また、笛や太鼓に合わせ勇壮に獅子が舞う獅子風流（ししふり）は、本校の伝統行事である。開校以来41年間受け継がれ、毎年11月に各浜を巡り、地域の皆様への感謝と地域の復興・発展への願いを込めて地域の方々に披露している。

本校は、昭和57年に旧荻浜中学校と旧東浜中学校が統合され、新生荻浜中学校として、全校生徒58名でスタートした。しかし、東日本大震災により、地域の大部分の家屋が崩壊・流失するという甚大な被害を受け、その後、転出生徒が相次いだ。今年度の生徒数は3年生2名、2年生1名の計3名で、今年度をもって閉校となる。

令和4年4月1日、3名の生徒の出迎えを受け、生徒会長から歓迎の言葉をいただいた。生徒会テーマは『飛躍～3人でつくる最後の1ページ』。歴史と伝統のある荻浜中学校の最後の年を迎えるにあたっての想いを聞き、目頭が熱くなった。「この3名の生徒のために、できる限りのことをしよう。最高の1ページになるように」そう心に誓った。

新学期、始業式の翌日から避難訓練週間が始まった。本校は目の前が海、後ろは山、校庭と海の間には防潮堤があるものの、地震発生時には、津波や斜面倒壊の危険性が大きいにある。毎日、様々な状況を想定し、4つの避難経路を使い分け訓練を行った。初日、避難場所に向かって3名の生徒と教職員が黙々と坂道を登って来るのを見て、「私はこの生徒たちの命を守らなければ。教職員の命も守らなければ。」と、その責任の重さを感じた。

『命＝未来。命を守ることは、未来を拓くこと』私は、生徒、教職員、地域を大切に、1年後、それぞれが自らの成長を実感し、未来を拓き、次のステージへと進めるように全力を尽くす。

新 任 抱 負



「自然豊かな地で、 新しい時代の学校を目指して」

石巻市立河北中学校長

鈴木 和 博

校長室の窓からは、遠くに上品山の稜線が空に浮かび、雄大なたたずまいが感じられます。視界の大半を木々の緑が占め、落ち着いた雰囲気の中で毎日を過ごしています。

私が赴任した河北中学校は、丘の上にあります。学区は川と山に囲まれ、田園が多く自然豊かな地域です。生徒は登校途中の「あいさつ坂」で、通りかかった車に深々と礼をし、しっかりした声であいさつをします。この、本校の伝統の一つでもある「さわやかなあいさつ」が赴任したての私にも誇らしく感じました。

本校では「全力でピアサポート」をスローガンに掲げ、生徒が互いを支援しようとする意識の向上を目指した取組や、生徒の主体的な活動を重視したカリキュラムを実践しています。5月の「新☆河北杯」(運動会)では行事名、企画、種目、係分担等のほとんどを生徒たちが決定しました。そこでは人の失敗も受け入れ、互いに支援し合う温かい姿が見られました。

私自身、以前から生徒が活動に主体的に取り組み、教職員は支援に徹する形の教育活動を理想と考えており、それが具現化しつつある本校の取組に強い共感を覚え、校長として今後更に推進させていけることに喜びを感じています。

これまで、多くの校長先生方に見守られながら過ごしてきた私の教員人生ですが、いざ自分が校長職に就いてみると、やっていることは模倣に過ぎず、力のなさを痛感する毎日です。いろいろな人に相談し、支えられて職務を遂行している現状ですが、頼りになる校長となることを目指し、自分らしさを出していこうと思います。

将来が見通しにくい時代にあり、学校は多くの課題を抱えています。その中であっても、常識にとらわれず本質をとらえることで、この豊かな自然に囲まれ学習環境の整った河北中学校を、新しい時代に合った特色ある学校とするよう力を注いでいきたいと思っています。



「新任校長としての使命」

東松島市立鳴瀬未来中学校長

大川口 裕 義

鳴瀬未来中学校は、旧鳴瀬第一中学校と震災で被災した旧鳴瀬第二中学校が統合し、今年度で10年目を迎える学校です。また、新校舎へ移転し、今年度で6年目を迎えます。私にとっては2回目の勤務となります。

昨年度末の内示の際、配属校名を告げられとき、校長職としての責任と同時に、前任校に戻る意味の重さに気が引き締まる思いでした。そして、私に求められているものは何かを考えながら4月の赴任を迎えました。

新学期が始まった第1週目、朝の挨拶運動の際、校門前に立ち、生徒や通行する方々に挨拶を行っている時、卒業生の保護者が車を路肩に止めて、「お帰りなさい」と声を掛けてくださいました。ここ鳴瀬地区の保護者の皆様、地域の方々は、以前から学校に協力的で、気軽に学校に寄ってくださる方が多数いらっしゃる地域です。

また、本校は中学校では県内初のコミュニティ・スクールです。平成27年度より、保護者や地域の代表の方々と共に、地域に開かれた学校づくりを行っています。

生徒たちは素直で明るく、昼休みには校庭いっぱい元気な遊ぶ姿があります。しかし一方で、震災の影響は未だ様々な面で続いており、支援の必要な生徒や配慮の必要なご家庭も多く見られます。校長として再度配属された私の使命は、地域の方々と共に、生徒や保護者の皆様の心からの復興と未来に向けての成長を学校教育の面から支えていくことだと考えます。

本校学校教育目標である「夢をもち、未来を切り拓く生徒の育成」の具現化を目指し、将来に向けて夢と希望をもった生徒を育てる学校経営に努めていく所存です。

本校の新校舎は、朝日に照らされると鳴瀬ゴールドに輝きます。生徒たち一人一人が輝くことができるよう、今後さらに、地域と学校が協働で教育活動に邁進していきたいと思っています。

新 任 抱 負



「笑顔・関わり・ 見逃さない」

登米市立米山中学校長

佐藤 智哉

「新所長さんごめんなさい。分からないことは、今後の電話でやり取りしましょう。」引継も中途半端な状態に心の中で言い訳しながら、以前の職場(登米市教育支援センター)を後にしました。(案の定、後任の所長さんからは、その後もよくお電話をいただき、引継の至らなかつた部分を説明させていただいております。)着任の挨拶すら出たところ勝負の状態です。4月1日を迎えました。生徒の出迎えセレモニー、そして挨拶回り。そして順調に過ぎ、温かな生徒や先生方、地域の方々に迎えられてだんだんと不安も薄れていったのを覚えています。

あれから早3か月が経とうとしています。米山中学校は生徒数233名、教育活動にちょうどよいサイズの学校です。町内には常に釣り人が出入りする平等沼公園があり、自然環境に恵まれている地域でもあります。毎日のように何かしら生徒指導上の問題等がありますが、教頭先生はじめ、先生方の粘り強い対応により、未熟な校長を擁しながらも良い状態で令和4年度のスタートを切ることができました。

今年度は「笑顔、関わり、見逃さない」を生徒指導の合言葉にして、教職員一丸となって日々の教育活動に取り組んでいます。GIGAスクール構想がらみのICT活用においても米山中学校は頑張っており、グーグル・クラスルームには各担当が毎日情報を掲載・共有し、朝の打合せの省力化を図っています。電子データ化した資料で職員会議を行い紙印刷の手間を省いたり、リモートによるオンライン授業を試したりなど、試行を重ねながら取り組んでいるところです。さらに、昨年度学校関係ホームページを一新したことを機会に積極的な情報発信を心掛けています。

感染症への対応、学校の再編等、流動的で先行き不透明な昨今ではありますが、米山中学校の良さを継承しつつ、教職員一丸となって地域の子供たちを育てていきたいと思っております。



「絆を深めて」

石巻市立湊中学校校長

後藤 正章

校長室は2階にあります。もともと教室だった場所に絨毯を貼り、書棚や大きめの机などが設置された校長室。校庭に面した南側がすべて窓なので、体育の授業や部活動に励む生徒たちの姿を一望することができます。子どもたちの笑顔や、明るく元気いっばいの声が、いつも校長室に届いてきます。

本校は、昭和22年に開校しました。今年で創立76年目を迎え、昨年度まで14,282人を輩出している伝統ある学校です。卒業生の中には、著名な芸術家や大企業の社長を務められている方、また、多くの教育関係者の方々がおられます。先日開催された管内の校長会議でも「私も湊中の出身です」と先輩の校長先生に声を掛けていただきました。改めて、本校の教育に関わる一員になった喜びを感じるとともに、その職責の大きさと重さを痛感しています。

震災から11年が過ぎました。保護者の方々や地域の皆様をはじめ、全国の、本当にたくさんの方々に支えていただき、応援していただいて、今の湊中があります。当たり前前の生活は、決して当たり前前にあるのではなく、大きな大きな心に守られ、支えられているからこそ、今日を過ごすことができるのだと思っています。生徒たちには、「心を大切に。仲間を大切に。感謝する心、そして、思いやりの心を互いに大切にしていこう」と呼びかけています。全校生徒57名が絆を深め切磋琢磨しながら、湊中の新たな伝統を築いてほしいと願っています。

生徒たちは、コロナ感染症の影響で、いろいろな場面で制約や我慢を強いられてきました。今年度は、万全な感染症対策を講じた上で、自分たちの持ち味をより生かすことのできる体験や表現活動を重視し、生徒一人一人が「楽しかった」と実感できる学習活動を実践していきたいと考えています。そして、生徒たちのためにできることを、教職員一丸となって取り組んでまいります。

新任 抱 負



「新任校長として」

気仙沼市立階上中学校長
一丸 孝 博

階上中学校に着任後の週末、私は学区内にある東日本大震災遺構・伝承館を見学しました。避難所となった体育館で行われた卒業式で、当時の生徒会長が涙を流しながら答辞を読み上げる姿が上映されていました。そして、その生徒会長に、一言添えながら卒業証書を手渡す校長先生の後ろ姿がありました。

後日、校長室の書棚に、「明日に向かって～東日本大震災・宮城県内中学校長の記録」を見つけ、手に取りました。階上中学校の当時の校長先生はこう記しています。「地域の宝、復興の担い手である子どもたち一人一人が、自分の目標に向かって邁進できるよう、学校と保護者、地域が手を携え、温かく寄り添える体制を構築することが校長の尽力すべき最大の使命である」。

震災を校長として経験した先輩の姿、そして言葉に、私は大いに励まされました。校長としての重責を感じ、不安と緊張で迎えた4月でしたが、先輩の思いを受け継ぎ、先輩に恥じないよう努めなければならないと強く思いました。

着任してから2か月が経ちましたが、明るく素直で、一生懸命に取り組む生徒、教育への情熱あふれる教職員、地域のため、学校のために協力を惜しまない保護者や地域の方に支えられ、充実した毎日を過ごしています。階上中学校は創立76年目を迎えますが、その長い歴史の中で、これまで学校と保護者そして地域の方々が子どものために共に取り組み、大切に育ててきていることを実感しています。“学校は地域に浮かぶ船”と言われるかもしれませんが、地域と共にある階上中学校はまさにそうだと思います。

この地域のことはまだまだ知らないことが多く、校長としても駆け出したばかりで未熟ではありますが、これまで階上中学校の伝統を築いてきた方々への尊敬の念を心に抱きながら、階上の子どもたちの幸せを願う全ての方と力を合わせ、職責を果たすために全力を尽くしたいと思います。

編集 後 記

退職校長を代表して長澤裕司先生の御挨拶の冒頭に、「全員が集う、一堂に会するという意味が、これほどまで感動をいただいている自分がここにあります。英断を下した校長会の皆様に敬意を表します。」という言葉をいただきました。会員が一堂に会して宮城県中学校長会総会が3年ぶりに開催され、開会前に先生方同士で情報交換を行う姿が見られ、対面することの大切さを痛感しました。

さて、我々中学校長会は各地区校長会相互の連絡提携を図り、中学校教育の全領域にわたる当面する課題の検討や研究協議、関係機関への提言や情報発信を行い、本県教育の振興に寄与することを目的にしています。目まぐるしく変化する社会情勢に鑑みて、子供たちの未来を育む豊かな教育活動を推進していきたいと考えます。

会報編集に携わり、各校長先生方に御執筆いただきました。あらためて読み返してみますと、各先生方の熱い思いが伝わってきます。読み終えた後には、勇気を奮い立たせていただき、今後の学校経営への活力の源になると感じました。

今回の会報では、三田村会長の挨拶と新任校長を代表して12名の校長の抱負を中心に編集いたしました。校務多忙の中、執筆に協力いただき心から感謝いたします。また、御一読いただき職務遂行の一助になれば幸いです。

(情報部長 築田)

令和4年度 宮城県中学校長会事務局

〒985-0851

多賀城市南宮字八幡170

多賀城市立第二中学校内

TEL：022-309-1351

FAX：022-309-1352

E-mail：miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp

事務局員：佐々木 奈美子



宮城県中学校長会ホームページ
<http://www13.plala.or.jp/miyagi-jhs/>